



モンシロチョウ

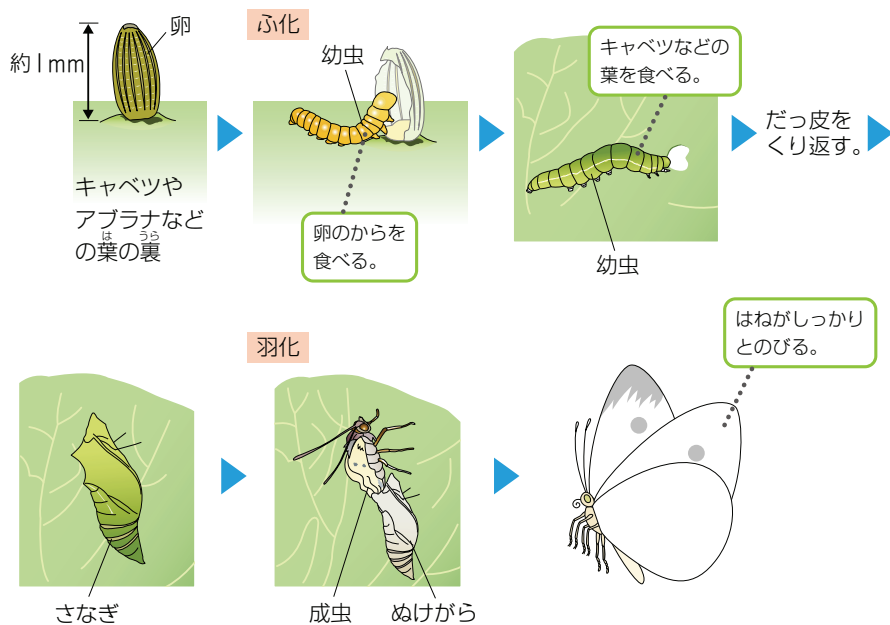


モンシロチョウは、日本全国で見られるチョウです。暖かい季節になると、成虫が畑や花だんのまわりなどを飛び回っているのが見られます。



成長のようす

モンシロチョウなど、チョウは(1)です。卵が(2)すると、幼虫は(3)をくり返して大きくなり、やがてさなぎになります。しばらくすると(4)し、成虫になります。



モンシロチョウは風が当たりにくい場所で(5)のすがたで冬ごしします。春になると(6)して成虫になり、めすが(7)に卵を産みます。その卵が成長し、2か月ほどで成虫になります。

モンシロチョウは、春から秋にかけて、(8)、というサイクルを何度かくり返しますが、(9)に(10)した幼虫はさなぎになるとそのまま(11)のすがたで冬ごしします。

食べ物とすみか

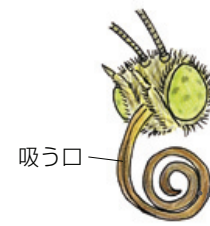
モンシロチョウの幼虫は、キャベツやアブラナなど(12)にすみ、それらを食べます。成虫は、花だんや畑にすみ、(13)を食べます。

からだのつくり

モンシロチョウの幼虫には、胸の部分にあしが(14)、腹の部分にあしが(15)あります。葉を食べるので、(16)です。

モンシロチョウの成虫は、花のみつを食べるので、(17)です。あしには小さな(18)があり、花などにつかまりやすくなっています。

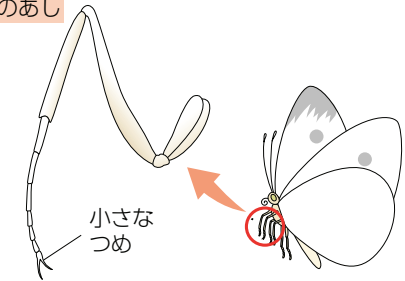
成虫の口



吸う口

花のみつを吸うときはのびる。

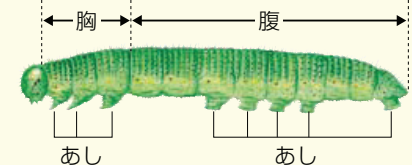
成虫のあし



小さなつめ

プラスワンの

幼虫に生えているあしのうち、胸から生えている6本が本当のあし、腹から生えているのは「腹あし」というあしです。



飼育の仕方

卵が産みつけられた葉を、空気が通る穴のあいた容器に入れて(19)場所に置きます。ふ化したらキャベツの葉などをあたえ、毎日食べ残しやふんのそうじをします。幼虫は手でさわらないようにします。

さなぎになったらそっとしておくと、やがて(20)して成虫になります。



アゲハ (アゲハチョウ)

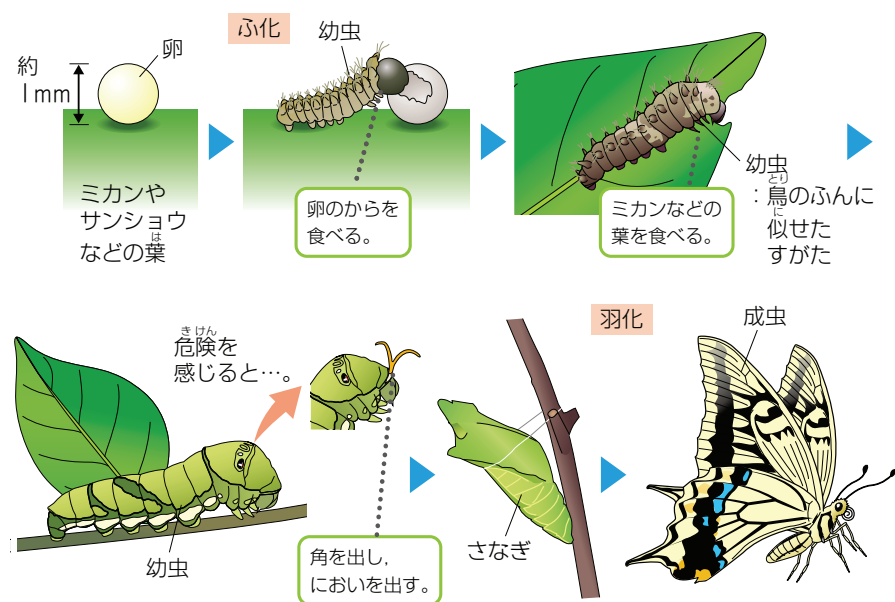


アゲハは、日本全国で見られるチョウです。暖かい季節になると、成虫が花だんや植木の花のまわりなどを飛び回っているのが見られます。



成長のようす

アゲハなど、チョウは(21)です。卵が(22)すると、幼虫は(23)をくり返してすがたを変化させながら大きくなり、やがてさなぎになります。しばらくすると(24)し、成虫になります。



昆虫がどのような成長をするかは、入試問題でもよく問われます。チョウのなかまは、さなぎのすがたになる「完全変態」、セミのなかまは、さなぎのすがたにならない「不完全変態」...など、なかまごとに整理しておいてください。

アゲハは(25)などで(26)のすがたで冬ごしします。春になると(27)して成虫になり、めすが(28)に卵を産みます。その卵が成長し、2か月ほどで成虫になります。

アゲハは、春から秋にかけて、(29)、というサイクルを2回ほどくり返しますが、(30)に(31)した幼虫はさなぎになるとそのまま(32)のすがたで冬ごしします。

食べ物とすみか

アゲハの幼虫は、ミカンやカラタチ、サンショウなど(33)にすみ、それらを食べます。成虫は、花だんや街路樹の近くにすみ、(34)を食べます。

+プラスのソ

幼虫と成虫で食べ物が同じ昆虫もありますが、ちがう昆虫もいます。昆虫はえさがたくさんある場所をすみかとするため、幼虫と成虫ですみかが異なる場合もあります。ふ化してすぐ食べ物の近くにいられるように、幼虫の食べ物がある場所に卵が産みつけられます。

からだのつくり

アゲハの幼虫には、胸の部分にあしが(35)、腹の部分にあしが(36)あります。葉を食べるので、(37)です。

アゲハの成虫は、花のみつを食べるので、(38)です。

成虫の口



吸う口
花のみつを吸うときはのびる。

(注意) 本ドリルでは入試問題を掲載しておりません。